

KSKR

No.230

2017
Sep.

9

奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kiyuna

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人：

関西障害者定期刊行物協会

編集人：奈良県自閉症協会

支部長&事務局：河村舟二

〒639-1005

大和郡山市矢田山町 84-10

購読料1部 100円

会員は会費に含まれています。

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

2017年9月9日(土)午後4時から天理大学の教室で「パラアート国際交流シンポジウム」が開かれ、中国北京星星雨(シンシンウ)教育研究所の孫忠凱(ソンチュンケイ) 所長による「自閉症者の芸術活動」の講演がありました。中国では自閉症の療育の一環として、絵画や音楽等の芸術活動が積極的に取り入れられているようでした。その後、車いすの書家でカルガモ母さんの愛称で呼ばれている川上美也子先生・天理大学の八木三郎先生・孫忠凱先生そして河村によるパネルディスカッションが行われました。川上先生は「日頃の芸術活動」について話

され、芸術の世界は障害があろうがなかろうが作品の評価と価値は同じ土俵であること。障害者の作品であることを意識しての作品評価はおかしいとの見解には感動しました。また、日本の福祉は、わりと進んだ国であり、たまたま自閉症などが最近まで福祉の谷間におかれてきたと思っていましたが、全く違うことを知りました。福祉を専門に研究されている天理大学の八木三郎先生の「障害者

施策における芸術活動」のお話では、障害者の社会参加に目が向けられたのは1964年の東京オリンピック・パラリンピック以後のことです。パラリンピックの参加者を見ると、世界の多くでは障害者が一般社会の中に就労し、生活の中でスポーツを楽しんでいるにもかかわらず、日本

を持った人がいること(サヴァンなど)。彼らは教えられて習得した技法というより、生のありのままの表現法をする人たちであること。世に認められている人の多くは、本人の天性の才能があったことは確かだが、その才能に気づき、才能を開花させ、仕事を支援していった本人



では多くの障害者が施設入所をし社会と隔離していた現実を悟り、これに驚いたことに始まります。それから徐々に今の障害福祉観や地域で自立して暮らす障害者の生活観が根付いてきたようです。八木先生のお話により、日本はまだ福祉の先進国には程遠いことを認識させられました。私からは「自閉症者にとっての芸術活動」ということで、自閉症の人たちの中には多くの芸術的才能

を取り巻く支援者の存在があったことを示し、多くはお母さんであり、学校の先生であり、周りの専門家の力が大きく、そこには、たゆまぬ支援と適切なかわりがありました。「回りの理解」「地域に心ある支援者の存在」が彼らの芸術を支える条件であることを話しました。

2016年10月に障害者芸術活動推進法案が示され、国や地方公共団体が作品を芸術として評価し支援することがうたわれています。「作品発表の機会が増える」「障害のある人が芸術に触れる機会が増える」「契約や販売事業の整備」「人材育成」を狙いとしており、すでに障害者の芸術活動支援モデル事業として国の

予算化も行われています。

今、奈良では第32回国民文化祭・なら2017(文部科学省事業)。第17回全国障害者芸術文化祭なら大会(厚生労働省事業)が、全国初の一体開催として、9月1日から11月末まで県内各地で催されています。事業主体は異なっていたとしても文化芸術祭は、先の考え方からして、一体開催は当然でむしろこれまで分かれていたのがおかしいと思いました。さらには障害者芸術と特にうたわなくてもいいとも思いました。いずれにしろ奈良県が一体開催を全国で先駆的に行ったことの意義は大きいと思われまます。

このシンポジウムには中国の自閉症本人と家族および関係者18名の北京芸術団の皆さんが参加され、9月10日には上海の芸術団15名の皆さんが加わり天理大学の学食、心光館で懇親会が行われ、日中の交流が行

われました。この交流活動は今後も続きますので、ぜひ、みな様の参加をお願いします。

(河村)



障害者親に関する参考資料 「障害者福祉の世界」

(佐藤久夫・小澤温著、有斐閣、第5版、2016)

第1章 「障害」と「障害者」をどう理解するか 第1節 「障害」の意味

『五体不満足』のメッセージ

驚異的なベストセラーで、さらに次々と外国語にも翻訳された『五体不満足』(講談社、1998年)の中で、先天性四肢切断という障害をもつ乙(おと)武(たけ)洋匡(ひろただ)は、障害と幸・不幸は関係ないと主張する。

現に自分は障害をもっているが毎日が楽しい、と本人がいうのだから説得力がある。たしかに乙武がいうように、障害をもっていなくてもふ

さぎこんだ暗い人生を送る人がいるし、重度障害をもっているもののんびりと暮らしを楽しんだり、ばりばりと社会活動に参加している人もいる。障害はその人の幸・不幸とは関係がない、というメッセージである。

障害は幸・不幸と関係がないとして、それではいったい障害とは何なのか。このことについて、乙武は興味深いことを書いている。まず障害を乗り越えるもの、克服するもの、マイナスなものという見方をしていないという。それは乙武の両親も同じだという。そのような両親に育てられたから乙武もそうみるようになったのかもしれない。

しかし「障害は個性」という言い方もくすぐったく、しっくりこないという。個性という言葉は、何か大事なもの、自慢できるもの、プラスのものという意味を含んでおり、あえてそういうほどのものだろうか、

と乙武は考えているようである。

子どもの頃、手足がないめずらしさや電動車いすを乗りまわすかっこよさも手伝って人気者となったことなどを背景に、ひと頃は障害をプラスのもの(「特長」)とみてきたという。しかし今ではプラスでもマイナスでもない、障害は、幸・不幸とはもちろん、その人の能力や性格とも、社会参加の可能性とも関係のない「単なる身体的特徴」とみているという意見である。

今日、実際にはますます多くの障害者が社会参加し、楽しく充実した人生を送りつつあるのに、障害=不幸・無能という古くからの観念が人々の心に残っている(このため胎児中絶や障害児と親の心中すら起こっている)。『五体不満足』は、この事実と観念との乖離を縮める好著であろう。

○障害と幸・不幸

しかし残念ながら障害をもったことで自分は不幸だと考える人はいる。私自身、「こんな体になって、私は世界で一番不幸な人間です」という訴えを聞いたことがある。その人は脳卒中の後遺症で「寝たきり」状態に近くなった高齢女性であった。中途失明者のほとんどは自殺を考えるといわれるところをみると、少なくとも一時期、人生に絶望することはまれではないのであろう。

これとは逆に、決して多くはないが、興味深いことに障害をもったことで得られたもの、みえてきたものゆえに、障害をもったことの幸福を感じている人もいる。特殊な例では、ある統合失調症の人から「武田信玄と話ができるので、毎日が楽しい。しかしそればかりだと仕事に差し支えるので、適当に切り上げるようにしている」という話を聞いた。

<p>一般的には「障害をもつようになって、競争に追われなくてよくなった。肩の力を抜いて生きていけばいいのだ、ありのままの自分でいいのだと思えるようになり、人間や社会など今まで見えなかったものがみえるようになってきた。自分自身も好きになってきた」というふうに述べられる。身体障害者にも精神障害者にもこのようにいう人がいる。</p> <p>○障害と不便</p> <p>ただし多くの場合、中途障害の発生後の一時期を除けば、障害をもつことをそうした幸・不幸という軸でみているのではなく、不便、不自由、不都合といった実際的な見方・感じ方をしているように思われる。とくに身体障害者の場合には、日常の道具や機器、住宅設備、交通機関などの不便感が強い。ここでは「手足の不自由」(障害)から「使いにくい</p>	<p>道具や環境」へと時間とともに次第に不便の焦点が移行するものと考えられる。</p> <p>生まれつきの障害をもつ人々の中には、その障害をなんら不自由だとは思わない、生まれたときからこの体で暮らしてきたのであり、これが自然な自分の生活だという人もいて、人間の適応力の大きさを教えられたりもする。人は普通腕を2本もつが3本目がなくて不自由だとは思わない。頭の後ろに目がついていれば便利なこともあるが、それがなければ便利なことであろうが、それがなければからといって不便だとは思わない。生まれつき腕が1本の人や2本目がなくて不自由だとは思わないというのも、同じようなものなのであろう。片腕しかないので重いものが持たずに不便だろうと考えるのは、80kgを持ち上げる力持ちがせいぜい30kgしか持ち上げられない凡人の「不便」を予想するようなもので</p>	<p>あろう。凡人にとっては重いものを移動するには他人や道具の助けを借りるのが自然であって、そのことの「不便」をいちいち気にしてはいないのである。</p> <p>○社会関係の中での障害</p> <p>障害に伴う不便や不自由を感じている人々でも、四六時中それを感じているわけではなく、またそうした不便や不自由が必ずしも一番大きな問題であるわけではない。「自分にとって何かの動作ができないこと自体は大したことではなく、一番重くのしかかるのは、周囲の人が自分を信用せず期待せず、失敗しても叱ってくれないことだ」という人もいる。逆に「常に期待され、注目され、『いい子、立派な障害者』でいなければならないことに息がつまりそうだ」という人もいる。</p> <p>ある上肢の障害をもつ人はこう語</p>
<p>る。</p> <p>「電車内の棚に荷物を上げるのを手助けしてもらう際に、障害をもたない人はごく自然に『ありがとう』といえるだろうが、自分はちがう。手助けしてくれる人と自分の間には『ありがとう』といったりいわれたりする自然な関係はない。いわれることはなくてということばかりだ。しかも頻繁にいわねばならず、これが一生続く。『ありがとう』というたびにチクリと痛む」。</p> <p>このように幸・不幸、不便、人間関係・社会関係の中でのアイデンティティにまでからんで、「障害をもつということ」の意味には各種の次元と大きな個別性がある。そのちがいは、社会の障害観の多様性の反映であり、本人の独自の意味づけの結果でもある。社会の障害観の多様性とは、たとえば次のようなことである。政府の『平成7年版障害者白</p>	<p>書』で紹介している「障害＝個性」という見方(障害をプラスに近いものとみる)もある一方で、運動会の騎馬戦で脊髄損傷となったため、学校側に1億5000万円の賠償を命じる判決が出た(障害を大きなマイナスとみる)。</p> <p>本人による意味づけの過程では、その人が過去に形成してきた人生観や価値観、そして周囲の人々による意味づけ、また障害の種類や程度、発生時期の影響も受ける(図1-1)。障害をもつ人の社会参加を妨げ、汚名を着せるような社会の中では、「単なる身体的特徴」だと思えといっても無理であろう。そう思える社会的条件が必要である。</p> <p>障害者福祉の実践にあたってはこうした面に対して十分な感受性をもって、つまり土足で入り込むことも無視することもなく、適切な情報を提供しつつ本人の主体的な意味づ</p>	<p>けを支援するべきである。</p> <p>○障害者観</p> <p>これまでみてきたように、障害に対する「意味づけ」は個人により大きく異なる。そして重要なことは、障害・障害者をどうみるかによって、その後の行動・対応がちがってくることである。そのことは障害のある当事者にも、家族・友人にも、支援の専門職にも、国や自治体にも当てはまる。障害者を弱く無能な人とみれば保護と劣悪な処遇の対象となり、同じ市民とみればそれにふさわしい対応がなされる。</p> <p>この障害者観として、今人類は次の見方をもつに至っている。「障害者は、その社会の他の異なったニーズをもつ特別の集団と考えられるべきではなく、その通常の人間的なニーズを満たすのに特別の困難をもつ普通の市民と考えられるべきなの</p>

である」（国際障害者年行動計画、63項、国連、1980年）。

ここには普通の人があるニーズをもっていること、しかしそれを満たすのに特別な困難があると書かれている。たとえば働きたい、時々旅行も楽しみたい、などと思いつつも、その実現には非障害者が経験しないような大きな困難がある。普通の人だといって困難を無視するのでもなく、困難だけみて普通の人である点を無視するのでもない。普通の人という基礎の上に困難を認識させ、その解決のための行動を促している。なおこの国連の規定には障害の定義は書かれていないが、目がみえないことや手足のまひなどのことよりもむしろ、「ニーズを満たす際の困難」が障害であると示唆している。

だいぶ以前の規定だが、これは今なお最も進んだ障害者観と考えられる。これに照らして政策や法律、そ

して個別的な対応が評価されることが望まれる。

○障害者観と政策

このような障害者観を人々がもてるためには何が必要であろうか。学校やマスメディアでの教育も必要であろう。近年障害者の活躍している姿を紹介する番組が多くなったのは好ましいが、さらにドラマなどで（通行人やレストランの客など）「背景として」障害者をより登場させることも望まれる。障害者観の形成にとってより重要なのは、実際の生活の中でふれあうことであろう。学校、職場、地域、家庭でふれあい、希望や能力や困難を理解し、困難解決には何が必要かを自然に学ぶことである。

市民の障害者観の形成にとっては、政策や計画が特別に重要である。時々「市民理解が十分得られないの

で」と、政策や計画が遅れる理由を説明する行政担当者がみられる。たしかにグループホームの建設に周辺住民が反対するなどの現象は今なおみられる。しかし障害者が入所施設や病院でのプライバシーも十分に守られない生活を長期にわたって余儀なくされていけば、また、交通機関の利用もしにくい状況が放置されていけば、「障害者は価値の低い存在だ、普通の暮らしを営めなくても仕方ない、行政がそうしているのだし」と一般市民は考える。市民の障害者観と政策・計画の関係は複雑とはいえ、政策・計画およびそれによる障害者の生活・社会参加の実態が、障害者観を形成するという関係が主要であり、その逆の影響は副次的なものであろう。

（ゴシックは索引事項）

災害時に備えて今できること

避難に助けが必要な方へ。

災害時にすみやかに避難できるようにするために、市町村が作成したあなたの避難行動要支援者名簿を支援者へ提供することに同意しましょう。

災害が起きた時、誰かの助けがほしい、周囲の状況を知りたい、そう思うことはありませんか。

そのような不安を解決するために避難行動要支援者名簿の制度があります。



避難行動要支援者名簿は、要配慮者の内、災害発生時の避難等に特に支援を要する方の名簿として、その作成が平成26年4月から市町村に義務付けられました。

この避難行動要支援者名簿に登録されると、例えば、災害時に、避難誘導に関する支援を受けられたり、安否確認・救助活動に活用されたりします。

加えて、避難行動要支援者名簿を市町村から支援者に提供することにあなたが同意することで、災害時の支援が受けられやすくなります。

情報提供の同意によって、例えば、災害時の支援だけでなく、平時においても、支援者からの見守りや防災訓練などに活用されます。

提供される情報は、個人情報ですので、情報を受け取る支援者には災害対策基本法によって守秘義務が課されています。

災害時助かるために、避難行動要支援者名簿の支援者への提供に御協力をお願いします。

意義深い一体開催

編集委員 松井重宏

「第32回国民文化祭なら2017(国文祭)」と「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会(障文祭)」が、きょう1日、県内を会場に開幕する。国文祭は名称にある通り、市民が取り組む文化活動を発表、交流する全国規模の大会で、今回初めて障文祭と一体開催。障害の有無にかかわらず、すべての人が文化、芸術を通して感動を共有できる大会が目指されており、その意義を再確認したい。

両祭は、それぞれ文部科学省、厚生労働省の所管で、開始時期も異なるなど、これまで別の催しとして行われてきた。それが一体開催されることで発信力の向上や経費節減などの効果に加え、新たな価値の創出、発見も期待されている。来年以降も同時実施の予定で、県開催を機に二

つの“文化の祭典”が新たな一歩を踏み出す。

イベントでは、目で見るだけでなく手でも触れることができるなど五感で楽しむ展覧会や車いすダンスパフォーマンス、バリアフリー映画祭などを実施。各会場では手話や点字による通訳も積極的に導入する。

両祭がテーマに掲げるのは「日本文化の源流を探る」「文化の今を楽しむ」「文化芸術立国の礎を築く」「障害のある人となない人の絆を強く」の4点。この中では県が持つ豊かな歴史文化が強く打ち出されているが、同時に、県内には、障害者の文化芸術活動で全国の先駆けとなった草分け的存在の「たんぽぽの家」があることも忘れてはならない。また桜井市の男性が専用盤を開発、世界に広まった視覚障害者囲碁の国際大会も開かれ、発祥の地をアピールする良い機会になりそうだ。実施される

イベントは計103件で、会場となるのは県内すべての37市町村。加えて恒例の「県大芸術祭」も同時開催されるとあって、11月30日までの3カ月間は身近なところで、さまざまな文化芸術イベントに出会えるだろう。全国から訪れる出演者や観客を歓待するとともに、県民自らも積極的にイベントに参加、楽しむことで祭りを盛り上げたい。

県内で開かれる全国規模の催しといえば昭和59年の第39回国民体育大会「わかくさ国体」を思い出す。あれから30年以上たち新たな課題も浮上しているが、一方で同大会が県スポーツのレベル向上に果たした成果は、今も確かに受け継がれている。一過性のイベントに終わらせない。そのための努力、取り組みも行政だけでなく文化団体や県民全体で考えるべき課題になる。

奈良新聞 2017年9月1日金曜時評

声明 風化させてはならない 相模原殺傷事件

“生命” “人権” の大切さを

障害者19名の生命を奪い、さらに27名に重軽傷を負わせた「相模原障害者殺傷事件」から早や1年余が経過しました。報道でこの事件を初めて目や耳にした時、私たちの受けた衝撃は言葉に表せないほど大きなものでした。

被告は1年たった今も、「障害者是不幸しかつからない」と語っているといます。しかし19人にはそれぞれの人生があり、そして未来があったはずで、それを一瞬にして奪うことは断じて許されません。

事件から1年が過ぎた現在も、初公判の見通しはたっていません。今後開かれる裁判では、犠牲となった

19人全員が匿名で審理されることが報じられています。ご遺族等の意向は一概に否定できるものではありませんが、犠牲者が匿名で語られ続けることにより、一人ひとりの“生命”や“人権”について考える手がかりを、多くの人々が失ってしまっていることを指摘しなければなりません。

また、この事件を契機として、精神保健福祉法改正案が国会に上程され継続審議となっていますが、この事件と精神疾患との因果関係が明らかでない中、改正案の妥当性を十分に検証し、措置入院した人への地域での監視体制が強化されることのないよう求めます。

この事件は、私たち障害当事者の心を深く傷つけ、家族や関係者に大きな衝撃を与え、市民社会の溝をも深めてしまいました。私たちは、この事件を風化させることなく、相互

に議論を深めていくとともに、障害者権利条約に基づいて、障害のある人もない人も共に生き、共に働き、共に学ぶ、分け隔てのないインクルーシブ社会の実現をこれからもめざしていきます。

2017年8月18日
日本障害フォーラム (JDF)



「この世に障害者という人種 はいない」 ホンダ子会社の理念

民間企業で働く障害者は約47万4000人(2016年6月)。13年連続で過去最高を更新しているが、企業が義務付けられている雇用割合の2.0%を達成している企業は全体の半数に満たない。そんな中、36年前から障害者雇用を主軸としている企業がある。大手自動車メーカー、ホンダの特例子会社「ホンダ太陽」と本田技術研究所の特例子会社「ホンダR&D太陽」だ。

ホンダ太陽では車やバイクの部品を生産。障害者の雇用率は51.9%で、健常者と作業台を並べて組み立てや品質管理を行う。一方、ホンダR&D太陽の障害者雇用率は84.6%。最新のCAD技術を駆使した機械設計などデスクワークがメイン

で、福祉機器や車、バイクの汎用製品の研究開発を行う。

◆“健常者”“障害者”の意識すらないでしょう

大分県速見郡日出町。豊かな自然に囲まれた広大な敷地に、ホンダ太陽・ホンダR&D太陽の工場はある。ここでホンダ太陽は正・嘱託社員合わせて計198名/うち障害者(重度・軽度・知的・精神)は97名、ホンダR&D太陽は計52名/うち障害者は44名が働く。

建物内に入ると、広々とした通路を車いすのスタッフと歩行スタッフが躊躇なく行き交い、私たちに「こんにちは!」と声をかけ、通り過ぎる。

「ここでは障害者は特別扱いされません。給与形態も同じですし、自分のことは自分でやるのが基本。助けを求められないかぎり、障害者だからといって手を貸すことはまず、な

いですね」

そう説明するのはホンダ太陽の総務課課長でジョブ・コンダクターの直野敬史さん。「おそらく“健常者”“障害者”という意識すらないでしょう」と付け加えた。

昼休みを告げるベルが鳴った。私たちも社員食堂で昼食をいただくことになり、これまた広々とした食堂へ。食事の受け取り口からトレイの返却口に至るまで、すべての動線が車いす目線で設計してある。トレイをひざに置いて移動するのになんの造作もないし、多少動作に時間がかかっても、誰も慌てないしイラつきもしない。もはや、太陽が燦々と差し込む明るい食堂のテーブルにつけば、健常者と障害者の見分けすらつかない。

障害者の自立、健常者との連帯、障害の有無に関係なく作業ができる環境の整備…。まさに、厚生労働省

が理想とする企業の労働形態が、ごく自然に目前にあった。

◆「太陽の家」とホンダ創業者・本田宗一郎さんの出会い

ホンダ太陽設立のきっかけとなったのは、社会福祉法人「太陽の家」である。「障害をもつ人の本当の幸せは、残存機能を活用して生産活動に参加し、社会人として健常者とともに生きることにある」と提唱した整形外科医・中村裕博士が、1965年に障害者が働きながら暮らせる施設として設立した。

1978年、ソニーの創業者、井深大さんの紹介でホンダの創業者、本田宗一郎さんが「太陽の家」を訪れた。中村博士の案内で作業所を見て歩いた本田さんは、ホンダ太陽の設立を決意する。

志を共有するソニー、オムロンも障害者就業支援に乗り出し、1981年には近代的な工場が完成。当時は

1階にホンダ太陽、2階にソニー・太陽、3階にオムロン太陽電機が入り、それぞれが生産活動の管理と運営を行って、就労障害者の健康管理と日常生活の支援を太陽の家が行うという、ユニークなシステムが採用された。

オムロン太陽電機はホンダ同様、事業を拡大し、大分・別府にオムロン太陽、1985年にはオムロン京都太陽電機を設立。「われわれの働きでわれわれの生活を向上しよりよい社会をつくりましょう」を社憲に、障害者の雇用を促進している。

◆普通に仕事をし、車に乗って、普通に人生を楽しむ

「この世に『障害者』という人種はいない。また、同じ人は一人もいない。人にはそれぞれ他にはない個有のすばらしい『持ち味』がある。その違いを互いに認め合う中に、一人の人間としての自立が生まれる。

例え、心身に障害は負っても人生に障害はない。『障害者』としてではなく『一人の人間』として社会に役立ち、普通に生きてゆく。これが私たちの基本理念『何より人間 — 夢・希望・笑顔』です」(ホンダ太陽・ホンダR&D太陽の会社案内より)

「ぼくは子供の頃から、家と病院と養護学校を行き来する生活でした。将来も授産施設(障害者の自立助長を促す職業訓練施設)で働くんだろうなあ…と漠然と考えていました」

そう語るのはホンダR&D太陽で解析業務や競技用車いすレーサーの研究開発に携わる佐矢野利明さん(29才)。

「でも、理学療法士のかたの勧めで車いすレーサーで競技に参加するようになり、ホンダR&D太陽に就職して初めて知ったんです。障害があっても、健常者と同じように普通に仕事をして、普通に車にレーサー

を積み、自分で運転して練習や競技に参加する。そんな自由で楽しい生活ができるんだって」

また、工場のバリアフリー設備を担当する技師の藤内芳郎さんは健常者だが、きっぱりとこう言う。「“障害者専用”という言葉がなくなればいいと思います。この工場の設備はすべて車いす目線で設計、階段はなくスロープです。だって、健常者はしゃがめばいいし、スロープでこと足りるじゃないですか。分ける必要は全然ないし、自分や自分の子供も、いつ障害者になるかわからないわけで、特別な人たちではないんですよ」

生前、障害者の自立支援に尽力し、国際ユニヴァーサルデザイン協議会の初代総裁も務められた“ひげの殿下”こと寛仁親王殿下の言葉を思い出した。「100%の障害者はいない。100%の

健常者もいない。人間は皆、身体(または精神)のどこかに障害部分を持っており、なおかつ健常なる部分をも併せ持っている」

食堂の大きなテーブルから、弾けるような笑い声が響いた。(2017年9月2日 7時0分 NEWS ポストセブン※女性セブン 2017年9月14日号 ライブドアニュースより)



平成30年度 「児童福祉週間」 標語の募集について

毎年5月5日の「こどもの日」から1週間を「児童福祉週間(5月5日~5月11日)」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発のための各種行事を行っています。平成30年度の児童福祉週間に向けて、その象徴となる標語を募集します。詳細については(公財)児童育成協会のホームページ

<http://www.kodomo-shiro.or.jp/jigyohyogo>

を御参照いただくか、下記お問い合わせ先まで御照会ください。

▲募集期間

平成29年9月1日(金)

~10月20日(金)

■募集内容

元気で頑張る子どもたちを応援する標語や未来に向けての子どもたち

からのメッセージとなる標語。

■主催者

厚生労働省、(社福)全国社会福祉協議会、(公財)児童育成協会

■お問い合わせ先

(公財)児童育成協会

事業部 標語募集係

TEL: 03 - 3498 - 4592

ひょうご 標語 ぼしご 募集

へいせい ねんど 平成30年度
じどうふくししゅうかん 児童福祉週間

みんなの夢や希望を込めた児童福祉週間の標語を考えよう!

募集期間 平成29年 9月1日(金) ▶▶ 10月20日(金)

厚生労働省では、平成30年度の「児童福祉週間」の標語を募集します。
最優秀作品に選ばれた標語は児童福祉週間のポスターやイベントで使われます。
あなたからの応募をお待ちしています!!

児童福祉週間とは?

“子どもたちがいきいきと、元気に幸せに育つためにはどうしたらいいのだろう”ということをみんなで考えたり、このような考えかたをたくさんの人に知ってもらうための1週間です。

国では毎年5月5日の「こどもの日」から1週間を「児童福祉週間」としています。

平成29年度「児童福祉週間」の最優秀作品になった標語

できること たくさんあるよ きみのために
(三谷唯さんの作品 香川県・8歳)

主催：厚生労働省・社会福祉法人全国社会福祉協議会・公益財団法人児童育成協会

応募方法

した ほうほう おうぼ
下の4つの方法で応募できます。

インターネット

おうぼ ひつようじこう にゅうりよく おうぼ
応募フォームに必要事項を入力して、応募してください。
アドレスはこちら→<http://www.kodomo-shiro.or.jp/jigyo/hyougo>

メール

かんが ひようご なまえ ねんれい がっこう がくねん じゅうしよ でんわ ばんごう
あなたが考えた標語と、名前、年齢、学校、学年、住所、電話番号を
こちらのアドレスに送ってください→hyogo30@kodomo-shiro.jp

ファックス

ようし ひつようじこう きにゆう おく
この用紙に必要事項を記入して、ファックスで送ってください。

郵便

ふうしよ かんが ひようご なまえ ねんれい がっこう がくねん じゅうしよ
ハガキまたは封書に、あなたが考えた標語と、名前、年齢、学校、学年、住所、
電話番号を記入して下の住所に送ってください。(10月20日消印有効)
〒150-0011 東京都渋谷区東2-22-14 ロゼ氷川6F
公益財団法人 児童育成協会「標語募集」係

【お問い合わせ先】

こうえきざいだんほうじん じどういくせいきょうかい でんわ ばんごう
公益財団法人 児童育成協会……電話番号：03-3498-4592

じどうふくししゅうかん ひようごおうぼようし
「児童福祉週間」 標語応募用紙

ばんごう
FAX 番号：03-3797-5676
児童育成協会「標語募集」係

おうぼ ひと おうぼようし まい ひと か
いくつも応募したい人は、応募用紙1枚に一つずつ書いてね。

な 名	まえ 前	(ふりがな) ()	ねんれい 年齢	さい 歳
がっこうめい 学校名	がくねん 学年	(大人の方は職業)		
じゅう 住	しょ 所	〒 -		
でん 電	わ 話	ばん 番	ごう 号	

かんが ひようご
あなたが考えた標語

- 応募した標語の著作権は主催者に帰属します。
- 応募者の個人情報は主催者が管理し、標語募集事業の運営以外の目的に使用することはありません。
- 複数まとめての応募の場合は、エクセル等にまとめて送付されても結構です。

海外発！ Breaking News

叫ぶ自閉症の息子に「うるさい」と匿名の手紙 母親の反論に賛否の声 (英)

自閉症の子を持つ親は、周囲の理解が得られないことが多々ある。このほど英グロスタシャー州で、自閉症の息子を持つ母親が匿名の近隣住民から手紙で非難を受けるといふ出来事が起こり、『The Sun』『Gloucestershire Live』『Mirror』など複数メディアで報じられた。母親はショックを受けながらもFacebookで反論したが、このニュースを知った人々からは賛否両論の声が寄せられている。

グロスタシャー州パークリーに住む2児の母ジェシカ・グリーンさん(27歳)は、自閉症スペクトラムの息子ヘンリー君(3歳)に対して苦情が綴られた手紙を受け取りショックと

怒りを感じた。

ヘンリー君は言葉を発することができず、音を立てたり悲鳴をあげることによってコミュニケーションを取っている。自宅庭でよく遊んでいるというヘンリー君だが、楽しくなるとつい叫んでしまうことが近隣住民を不快にさせたのだろう。その匿名の手紙には、このように記されてあったという。

「家の外で連続して叫び声をあげる子供の責任は、親が持つべきではないのでしょうか。私たち住民はあなたの子供の悲鳴にうんざりして我慢の限界です。あなたの子供のことはみんなが噂していて、親が育児放棄しているのではと言う人もいますよ。何もせずに四六時中子供を叫ばせるなんて尋常ではないし、自分勝手です。通りを隔ててあなたの子供の金切り声が聞こえてきたら、住民は庭で寛いでいられませんか。去

年は何も言わずに我慢していました。今年は子供も少しは成長するだろうと思っていましたが、一日中悲鳴をあげて、ますます酷くなっているじゃないですか。これは反社会的行為です。住民の迷惑を考えて何らかの対応をしてください。さもなければ協議会に報告し、児童福祉サービスにも通報せざるを得なくなります。」

この手紙を読んだジェシカさんは、Facebookでこのように反論した。「とても腹立たしいです。まず、子供の悲鳴が聞こえたのなら『大丈夫か』と尋ねるぐらいの礼儀があつて当然でしょう。だいたいグループ的な書き方をしていますが、特定の人だと思いません。誰が書いたのかは想像つきますが、書面ではなく直接私に苦情を言えないなんて臆病者ですよ。未だに自閉症や特別なサポートを必要としている子供のことを理解

していない人がいるなんて残念ではありません。手紙の主は自閉症のことをもっと良く知るべきですし、世間にももっと理解してもらいたいと思います。ヘンリーは、いろんな意味でごく普通の子です。トランポリンやサッカーもするし、外で遊ぶのが大好きなんです。確かに叫んだりしますが、もともとハッピーな子なんです。この手紙のことを協議会や警察にも話しました。私たちは育児放棄なんかしていません。夜遅くに何時間も庭に出させているわけじゃないし、もし去年から近所で問題視されていたのであれば、これまでに何か言ってきているはずでしょう。近所の人たちはみんな私のことを擁護してくれています。7歳になる弟思いの娘は、手紙のことを知り涙ぐんでいました。自閉症の子を持つことはとてもハードですが、こんな嫌がらせの手紙をもらうと余計に辛くな

ります。」

このニュースを知った人からは、「自閉症がどういうものか理解していない愚か者が多すぎる。『叫ぶな』と言っても障がいを持つ子供は理解できない子も多いのに」「障がい児を攻撃するなんて恥知らずの住民だ」「手紙の主、子供が自閉症だってこと知らないんじゃないかな」「住民は手紙じゃなく直接苦情を言うべきだし、この母親もすぐにSNSに投稿するのは良くない。双方が間違っているよ」「住民の苦情は理解できる。誰だって一日中悲鳴を聞かされたくないし、平和を保つ権利だってあるよ」「双方の言い分があると思う。でも親も叫び続ける息子への対処法はやっぱあるんじゃないかな」といった声が寄せられている。

2017年8月29日 21時20分

(TechinsightJapan 編集部

エリス鈴子)

海外発！ Breaking News

自閉症の5歳児に見知らぬ男性が「キミは動物園にいるべき」(英) 男性の発言にショックを受けたシングルマザー (出典: <http://www.dailymail.co.uk>)

我が子のことを見知らぬ他人に批判されることは親として辛い。このほど自閉症の息子を持つ在英日本人のシングルマザーが、バスの中で偶然乗り合わせた見知らぬ初老男性に「この子は動物園にいた方がいい」と言われたことにショックを受けた。彼女は英紙に「自閉症の人に対する理解を持ってほしい」と訴えている。

writer : tinsight-suzukoellis

海外発！ Breaking News

白 閉症の7歳児に「スポーツ大会は参加しないで」学校の対応に父親激怒（英）

様々な症状があるとされる自閉症の児童にとって、学校の理解とサポートは必至だ。しかし子供の心に寄り添うべき教育現場の大人が自閉症児のスポーツ大会への参加を禁じ、その子の父親が怒りの声をあげた。英メディア『Liverpool Echo』や『Mirror』などが伝えている。英リバプールのスピークに暮らすマーク・バーチャルさん（28歳）は、息子ジェイコブ君（7歳）が通うバンクスロード小学校のクラスに配置されるサポートスタッフに「18日のスポーツ大会に、息子さんを欠席させてほしい」と言われた。ジェイコブ君は発達障害のひとつとされるアスペルガー症候群を持って

おり、スタッフは「もし大会でジェイコブ君が負けたりしたら激しく動揺するだろうから、大騒ぎにならないためにも大会の行われる午前中は参加させないでほしい」と伝えてきたのだ。これに対してマークさんはメディアと自身のFacebookにこのように怒りをぶつけた。「確かに息子是对応が困難なこともあります。ですが、特別なサポートを必要とする子供を一人だけ仲間外れにして、『問題は除外すればいい』という考えを持った学校に怒りを感じます。息子のことをみっともなく恥づかしいとでも思っているのでしょうか。息子はスポーツ大会を楽しみにしていて、学校でも走る練習をしていました。たとえ競技に参加させなくても、メダルを渡す係とか、審判役とかできるでしょう。サポートが必要な子供たちをサポートしない学校なんて最低です。」

マークさんがジェイコブ君にスポーツ大会には参加できないことを伝えると、自分は学校に歓迎されていないと感じたのか大泣きしたという。息子の自閉症を理解してもらえなかった学校の代わりに、マークさんは午前中仕事を休み、メダルを買いに行き自宅でジェイコブ君のためにスポーツ大会を開いた。バンクスロード小学校のリンダ・ギブソン校長はこの事実を当日まで知らず、「校長や担任教師の許可なく指示したこと」と主張した上で「まったくもって不適切な指示だった。スポーツ大会には全ての子供が参加するというポリシーがある。二度とこのようなことが起こらないよう注意したい」とジェイコブ君の家族に謝罪した。

2017.07.21 22:38 writer :
tinsight-suzukoellis

海外発！ Breaking News

白 閉症の娘が唯一口にする食品が製造中止へ「飢え死にする」母が不安を吐露（英）

自閉症の娘が食べる唯一の食品、スーパー側は製造中止に（出典：<http://www.mirror.co.uk>）自閉症といっても様々な症状があり、周囲には理解が困難な症状を抱える人も存在する。このほど自閉症の5歳女児が、唯一夕飯時に口にする食品が店側で製造中止となり、女児の母親は「このままでは娘は飢えてしまう」と不安を隠せない。英『Mirror』など複数メディアが伝えている。スタフォードシャー州ルグレーに暮らす2児の母ニコラ・パッシーさん（31歳）は、娘ルビーちゃん（5歳）の今後の食生活に悩みを抱えている。なぜなら自閉症のルビーちゃんは感覚調整障害（sensory

modulation disorders、SMD）を患っており、食事に対して究極の選択をすることしかできない。これまで長年ルビーちゃんが夕食にしてきたものは、英大手スーパーチェーン店TESCO（テスコ）の自社ブランドである「Potato Alphabet Crispy Potato Letters」というアルファベット型の冷凍ポテトフライだ。しかし先月、TESCOはこの商品の製造を「不人気」として中止してしまった。ルビーちゃんは、このポテトフライと一緒に限定されたメーカーのチキンナゲットやターキーナゲットを食べているが、ポテトフライがないとナゲットを口にしないという。ニコラさんはTESCOのポテトフライが製造中止になることを3週間前に知り、オンラインでまとめて購入することを試みたがすでに在庫はなかった。また地元の支店に問い合わせ

せもしたがそこでも在庫切れで、冷凍庫には4袋の買い置きしかない。ニコラさんは現在の心境をこのように話している。「ルビーの自閉症の症状は、変化を嫌うものなんです。ポテトフライはTESCOブランドの物しか口にしません。違う店のポテトフライを与えても娘にはわかるようで、サイズがほんの少し違ったり、ニオイや色が異なればもう口にしません。今では、TESCOのポテトフライがもう手に入らないとわかっているのか、ルビーはとても不安になっていて『食べたらなくなる』と思って口にしくなっています。他の食べ物を拒否するばかりでなく、飲み物を十分摂取することさえもルビーにとっては時に苦痛なので、このままでは娘が飢えてしまうと本当に心配しています。娘に他の食べ物を口にしよう強制的にすすめても、一切食べなく

なってしまう可能性もあるので無理強いはできません。今でも他の物を食べるなら飢えた方がいいというような態度を取っているのです。自閉症を理解できない人からすれば、『そんな取るに足りないこと』と思うかも知れませんが、私たちにとっては深刻な問題なのです。」

2017.04.21 21:00

writer : tinsight-suzukoellis

来年度の障害福祉部概算要求が発表されました！

平成30年度 障害保健福祉部概算要求の概要

◆予算額

(29年度予算額) (30年度要求額) (対前年度増▲減額、伸率)
1兆7,486億円 → 1兆8,666億円 (+1,180億円、+6.7%)

◆障害福祉サービス関係費 (自立支援給付費+障害児措置費+給付費+地域生活支援事業費等)

(29年度予算額) (30年度要求額) (対前年度増▲減額、伸率)
1兆2,656億円 → 1兆3,689億円 (+1,034億円、+8.2%)

【主な事項】 ※括弧内は29年度予算額

■ 良質な障害福祉サービス、障害児支援の確保 (P2)	1兆3,245億円(1兆2,231億円)
■ 地域生活支援事業等の拡充【一部新規】(P2)	507億円(488億円)
■ 障害福祉サービス提供体制の整備(P2)	103億円(71億円)
■ 医療的ケア児に対する支援【一部新規】(P3)	2.9億円(0.2億円)
■ 芸術文化活動の支援の推進(P4)	3.0億円(2.5億円)
■ 障害者自立支援機器の開発の促進【一部新規】(P4)	1.7億円(1.6億円)
■ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築(P5)	2.3億円(2.3億円)
■ 発達障害児・発達障害者の支援施策の推進【一部新規】(P6)	5.9億円(2.1億円)
■ 障害者に対する就労支援の推進(P7)	1.2億円(1.1億円)
■ 依存症対策の推進【一部新規】(P8)	8.1億円(5.3億円)
■ 障害福祉サービス事業所等の災害復旧に対する支援(復興)(P10)	0.6億円(4.9億円)
■ 被災地心のケア支援体制の整備(一部復興)(P10)	2.3億円(1.4億円)

※ (復興)と記載のあるものは、「東日本大震災復興特別会計」計上項目



厚生労働省 障害保健福祉部

発達障害児・発達障害者の支援施策の推進 5.9億円(2.1億円)

(※地域生活支援事業等計上分を一部除く)

(1) 発達障害児・発達障害者とその家族に対する支援【新規】

地域生活支援事業等(507億円)のうち2.3億円

発達障害児者の家族同士の支援を推進するため、同じ悩みを持つ本人同士や発達障害児者の家族に対するピアサポート等の支援を充実させ、家族だけでなく本人の生活の質の向上を図る。

(2) 発達障害の診療を行う医師等の養成【新規】

地域生活支援事業等(507億円)のうち1.5億円

発達障害の医療ネットワークを構築し、発達障害の診療・支援ができる医師の養成を行うための研修等を実施し、専門的医療機関の確保を図

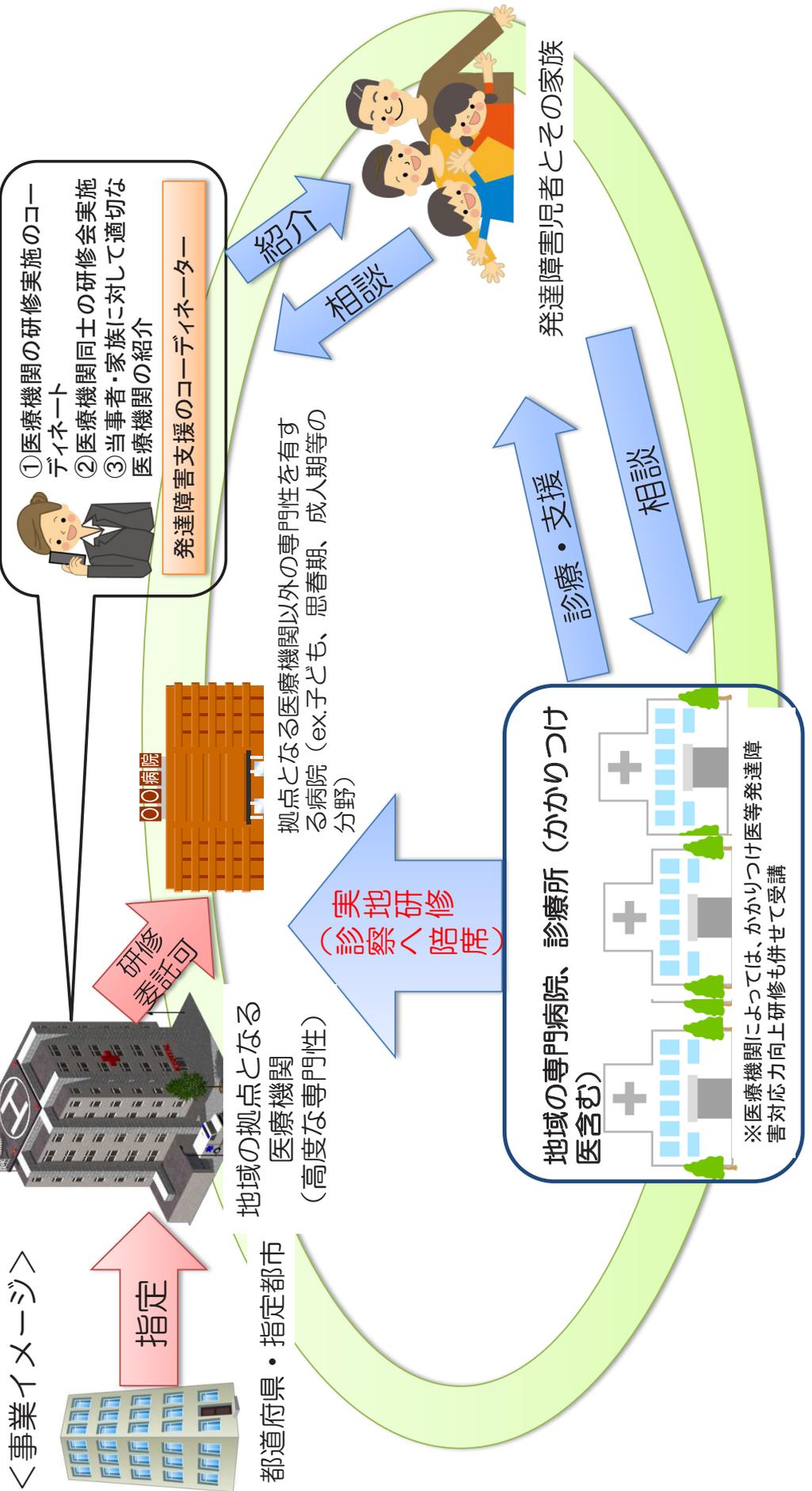
る。
(3) 発達障害に関する理解促進及び支援手法の開発 1.6億円(1.6億円)

全国の発達障害者支援センターの中核拠点としての役割を担う、国立障害者リハビリテーションセンターに設置されている「発達障害情報・支援センター」で、発達障害に関する各種情報を発信し、支援手法の普及や国民の理解の促進を図る。さらに、発達障害者支援センター等が抱える困難事例に係る支援を行う。また、「世界自閉症啓発デー」(毎年4月2日)などを通じて、自閉症をはじめとする発達障害に関する正しい理解と知識の普及啓発等を行う。



発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業（新規）

平成29年1月に総務省から「発達障害者支援に関する行政評価・監視結果に基づく勧告」がなされたが、発達障害の専門的医療機関が少ないという指摘があり、専門的医療機関の確保が急務となっている。
これを踏まえ、平成30年度概算要求において、発達障害の発達障害の診療・支援ができる医師の養成を行うための研修等を実施し、専門的医療機関の確保を図る。



自閉症eサービス@奈良 2017年度公開講座

暮らしを構造化する

～施設・GH・家庭の実践～

法人全体で、自閉スペクトラムの方々の『暮らし』を支えている、北海道の『社会福祉法人はるにれの里』の加藤氏にお越しいただき、『暮らし』を支えていくための取り組みや、大切さなどを、お話しいただきます。

また、午後からは『家庭協働療育モデル』と『施設からGHへの移行の取り組み』の事例をあげ、加藤氏、中山代表と内容を深めていきます。

日時

平成29年10月9日(祝)
10時～16時(9:30～受付)

場所

生駒市コミュニティセンター(セイセイビル)
生駒市元町1丁目6番12号
(生駒駅徒歩3分、裏面の地図をご覧ください)

参加費

年間パスあり 1000円
各地域のeサービス年間パスありも1000円になります。
年間パスなし 3000円

講師

加藤 潔 氏
(社会福祉法人 はるにれの里
札幌市自閉症者自立支援センターゆい センター長)

他、事例発表者2名
(社会福祉法人はるにれの里)

中山 清司
(自閉症eサービス@大阪 代表)

定員
200名
(先着順)

※裏面の申し込み用紙に必要事項を記入し、お申し込みください。



お問い合わせ

〒630-0222 生駒市壱分町 356-2 かざぐるま内

FAX: 0743-77-6868 e-mail: esnara.info@gmail.com

HP: <http://esnara.jimdo.com/>

※スタッフが常駐しておりませんので、なるべくメールまたはFAXでお問い合わせください。

2017年度 自閉症eサービス@奈良



FAX 0743-77-6868

自閉症eサービス公開講座 申込み用紙

『暮らしを構造化する』

はるにれの里 加藤氏 他

2017年10月9日(祝) 10:00~16:00

必要事項をご記入の上、FAX もしくは郵送にて、自閉症eサービス@奈良事務局にお申込みください。

申し込み期限：9月30日(土) 必着 ※受講いただけない場合のみ連絡をさせていただきます。

お名前(フリガナ)	2017年度年間パス
	あり (<input type="checkbox"/> 奈良 <input type="checkbox"/> 大阪 <input type="checkbox"/> 京都・滋賀 <input type="checkbox"/> せんだい <input type="checkbox"/> やまぐち) 登録番号： _____ なし (一般参加)
★一般参加を希望の方は、ご所属・連絡先をご記入ください。(年間パスありの方は不要です)	
ご所属	
連絡先 <input type="checkbox"/> ご自宅 <input type="checkbox"/> 職場 (職場名： _____)	
TEL : _____	FAX : _____
e-mail : _____	
住所 : 〒 _____	
今後、ご記入の連絡先に、自閉症eサービスからの研修案内をお送りしてもよろしいですか <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
その他、連絡事項	

※個人情報保護法に則り、目的外の使用はいたしません。

● **会場：生駒市セイセイビル**

生駒市元町1丁目6番12号 生駒駅より徒歩3分

※駐車場はありません。

※出来る限り公共交通機関でお越しください。

※公開講座のお問い合わせにつきましては、表面をご確認ください。



発行人：関西障害者定期刊行物協会
住 所：〒543-0015
大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4F
編集人：河村 舟二
定 価：100円

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行